

耐震等級3相当の家って何がすごいのか？

「耐震等級3」は、国土交通省が2000年に定めた、性能表示制度における耐震性能の最高等級です。

建築基準法では極めてまれに(数百年に1度程度)発生する地震による力が定められており、

この力に対して倒壊しない程度のもを「等級1」としています。

耐震等級3とはそれらの基準の1.5倍の耐震性を備えた災害時の拠点となる消防署や警察署と

同じ最高の基準の建築物ということです。

「耐震等級3」は、最高等級・建築基準法の1.5倍の耐震性



耐震等級3の家ってどこがすごいのか？

強い基礎



耐震等級1の場合は最低限の鉄筋の太さ間隔を守れば建築できますが、耐震等級3の場合、建物の加重やその重さに反発する地反力、さらに部屋の大きさ、柱の位置などに応じて必要となる鉄筋の太さ、間隔を決定しています。

強い壁



耐震等級1の壁量係数よりも割り増した係数を採用し、面積比率も考慮したうえで地震に対して必要となる耐力壁を決定しています。

強い床・天井



耐震等級1の場合、床に必要な強度を計算して求める基準はありませんが、耐震等級3の場合、床に必要な強度を求め、火打の量などを増やし、床・屋根を補強します。そうする事により、揺れやたわみに強くなります。

強い梁



耐震等級1の場合、梁に具体的な規定はありません。耐震等級3の場合、梁1本ごとにかかる加重(人・家具・建物の自重など)を考慮し計算で梁の大きさを決定しています。

強い接合部



強い基礎・壁・床・屋根・梁を発揮するためには、これらに取り付ける金物での補強が大切です。床や屋根の強さに応じて接合部の必要強度を算出した上で適正な接合部の金物を決定します。

耐震等級3の家って地震保険の割引があるのか？

もちろんあります。耐震等級1の場合は10%の割引ですが、耐震等級3の場合、なんと50%の割引になるんです。※ただし適合証明書が必要(有償)